＜先週の説教から＞

『ヘブライ書⑬―神の言葉は生きている！』

武田　真治　牧師

サムエル記上 ３：１～１４　ヘブライ手紙 ４：１２～１３

この手紙には本当に聖書（＝旧約聖書）の引用が多いと感じられると思います。しかも、その聖書の言葉を解説しながら話が進みます。あたかも礼拝説教のように。その為している根本理由がまさに今日の箇所に出ています。それが「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。」です。この「神の言葉」こそ《聖書の言葉》のことなのです。聖書こそ神様の言葉であり、「生きて」、私たちの心や体の中まで「刺し通す力」を持っていると。これは今の私たちにとっても欠くことの出来ない《聖書への信仰》と言い得ます。私たちの教団の『信仰告白』に於いても「我らは信じかつ告白す。旧新約聖書は、神の霊感によりて成り、キリストを証し、福音の真理を示し、教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救いにつきて、全き知識を与うる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり」とあります。それ故、礼拝の中で聖書が読まれ、その解き明かしをすることが牧師の説教なのです。

特に、聖書が神の言葉だなあと思う時はここにもありますように「（私たちの）心の思いや考え」をスパッと指摘された時ではないでしょうか。罪深い私のような者は『痛いなあ』と感じさせられ、『これでいいのか？』とか『傲慢な人間になっているのでは？』と思わされます。そのような思いを聖書の言葉から与えられる理由こそ、まさに次の言葉「神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです」とあるように《神様の目》をそれらの言葉の背後に意識せざるを得ないからではないでしょうか。神様がすべてを見透かされた上で、私たちに聖書を通して語り掛けておられると思うからでしょう！

ただ、先ほど読んで頂いたサムエル記上３章に登場している少年サムエルは（後に預言者となっていくのですが）、神様から最初に語り掛けられた時、それが神様の声だとは全く分かりませんでした。育ての親である祭司エリの呼ぶ声だと勘違いしたのでした。何度も間違った後、エリから、それは「主の声だ」と教えられて初めて『どうぞお話しください。僕は聞いております』と答えることが出来、ようやく神様の言葉を与えられたのでした。神様が私たちに語り掛けておられるということを信じない段階では、聖書は神の言葉として「生きて」私たちの中へ「力」を及ぼすことが出来ないのです。

その上で最後に「この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません」と教えられています。これは最後の審判の時、または地上の旅を終えて天に招かれた時が考えられていますが、大事な点は、その時すべてが「神の目には裸であり、さらけ出されている」のならば、もはや何も言うことがない、ただの言い訳になってしまうのではないかと。その通りです。でも、神様は私たち自身の口から言葉を聞きたいと言われておられると。言い訳でもいいからと。それはまさに《祈り》と同じなのです。その時、イエス様が私たちの側に立ってくださり執り成してくださるのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】◉聖書研究・祈祷会 Ⅰ.５月 18 日（水）20：00
Ⅱ.５月 19 日（木）10：30

聖　　書：　エゼキエル書
祈祷主題：
担 当 者：　(水)　　(木)
祈 る 人：　さん

【教勢報告】

主日礼拝	男 25	女 60	計 85
祈祷会 Ⅰ.	男 4	女 2	計 6
祈祷会 Ⅱ.	男 3	女 8	計 11

日曜学校　休校

【次週礼拝】　５月　２２日（日）

聖　書：　詩 編　１１０：１～４
ヘブライ人への手紙　５：１～６
説　教：　「ヘブライ⑮― 栄光ある任務へ」
武田 真治　牧師
讃美歌：　５６(1)、３２、４０１(1と2)、
３７８(1と2)、９０(1)

【次週当番表】

６３－２０

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　５月　１５日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/